

## 2020 年度理工学部 FD 活動報告

理工学部 2020 年度 FD 委員会委員 坂本登

理工学部では、2020 年度以下のような FD 活動を行った。

### 1. 当初計画

- 1) FD・自己点検報告会の開催  
学部教員全員を対象とする FD・自己点検報告会を年 1 回以上開催する。
- 2) FD 講演会の開催  
年 1 回以上外部講師を招いて FD 講演会を開催する。
- 3) 教育活動の評価  
教育活動の評価として、優れた授業の担当教員を表彰する制度を継続する。
- 4) 「学生による授業評価」の実施結果の分析  
2017 年度から開始した、授業評価アンケートの理工学部独自設問の回答について分析を行う。
- 5) 教員相互の授業参観の促進

### 2. 2020 年度活動内容

- 1) FD・自己点検報告会を以下の通り開催した。  
日時：2021 年 3 月 10 日（水）13:30~14:50  
会場：Zoom によるオンライン開催  
講師：横山 哲郎教授，蜂巢 吉成教授  
題目：オンラインと対面を組み合わせたプログラミング系科目の授業の取り組み  
参加者：教員 29 名
- 2) FD 講演会を下記の通り実施した  
日時：2020 年 7 月 29 日（水） 15：15～16：45  
場所：Zoom によるオンライン開催  
講演者：坂本登教授，沢田篤史教授，張漢明准教授，藤井勝之准教授，金山知俊講師，佐々木美裕教授（南山大学理工学部）  
題目：コロナ禍逆境を奇貨としより良い講義法を探る  
概要：コロナ禍の下，理工学部の教育は大きな変化が強いられた。本発表では，地道な演習と実習が不可欠な理工学部におけるオンライン教育に対する様々な取り組みを紹介するとともに，その意外なメリットについても論じた。発表は Q1, Q2 でオンライ

ン講義を行った理工学部の数学、実験実習及び演習科目に加え、理工学部の貸与 PC の配布や Zoom のブレイクアウトルームを用いた質問受付など多岐にわたった。Zoom の画面共有機能を用いることで通常講義の板書よりもより見やすい講義が可能となるなど、意外な利点がある一方、実験実習科目では実験を教員が行ってビデオ化することで疑似の実験とする必要があるなど、本質的な問題点も明らかになった。また本 FD 講演会には、理工学部以外の教員、事務職員からも多数の出席を得、オンライン講義の現状に対する関心の高さが明らかになった。

- 3) 教育業績の表彰は該当者なしとなった。
- 4) 2020 年度に実施した全学「学生による授業評価」(Q2~Q4) について、理工学部科目のデータを用いて対面授業であった 2019 年度との比較を行った。学生の満足度はオンライン講義の方が概して高いという分析が得られた。これを 2021 年 3 月 10 日の FD 報告・自己点検報告会で報告を行った。
- 5) 相互授業参観促進方法の提案には至らなかった。

### 3. 2020 年度活動の成果

今年度はコロナ禍の下、FD 活動も異例の内容となった。FD 講演会を通じて、Q1 から各教員が手探りで行ったオンライン講義のノウハウや問題点を共有することができた。本講演会は理工学部外からの出席も多数あり、時宜を得た企画であったと言える。教育業績の表彰制度は、JABEE の審査に際して審査委員から示唆された制度であるが、本年度は該当者なしとなった。これまで毎年表彰されていたので該当がない年があることはやむを得ないことと考えている。授業評価では、理工学部のオンライン講義に対しては学生満足度が決して低くなく、むしろ向上した項目も少なからずあったことがわかったことは収穫であったと言える。授業の相互参観は依然として進まず、導入方法を引き続き検討していく必要がある。

以上